

原子力施設作業者コホートと診断年2016-17年全国がん登録情報とのリンケージ結果

○古田 裕繁、工藤 伸一、三枝 新

(公財) 放射線影響協会 放射線疫学調査センター

【背景】放射線影響協会(REA)は国の委託により1990年から放射線業務従事者の健康影響に関する疫学調査(J-EPISODE)を実施している。線量は個人線量計の年度合算値がREA放射線従事者中央登録センターに登録されている。生死・住所変更は住民票取得により追跡し、エンドポイントは従来死亡であった。2015-19年度に全員同意者から構成される新しいコホートを設定した。

【目的】解析対象集団(男性)77,993人について、2016-17年全国がん登録データとのリンケージを行い、年齢、部位別がん罹患状況を把握して、がん登録DB及びリンケージ方法の評価を行った。

【方法】全国がん登録法第17条第1項第3号の規定に基づき、非匿名化情報の利用申請を行った。応諾通知の受領後、国立がん研究センター(NCC)でリンケージを行うため、解析対象集団について氏名・生年月日、性別、住所、データ識別番号からなる外部照合データを作成した。住所は住民票による生死追跡の際に把握した住所履歴情報を用い、同一人について複数の外部照合データを作成した。リンケージの結果、NCCから罹患情報を付加して提供されたデータについて、重複データ等を排除し、年齢、部位別がん罹患数を集計した。また、評価のため、厚労省「全国がん登録罹患数・率報告」(2016-2017年)の罹患率を基準とした標準化罹患比(SIR)を推計した。

【結果】解析対象集団男性の診断年2017年の第一原発がん罹患数は847件であった。診断年2016年のSIRは70%程度と低目であったが、2017年は90.5%となり、リンケージが適切に行われていることを伺わせた。

【結論】J-EPISODEの参加者について、全国がん登録データと適切にリンケージできることが確認でき、今後の追跡によって、放射線のがん罹患リスクが推定できることが明らかとなった。

【利益相反】無

(注) 1. 本研究は原子力規制庁の委託事業として実施している。2. 本研究のがん罹患情報は、全国がん登録法に基づき情報の提供を受け、独自に作成・加工した資料である。